

# 関西発

## スポーツ 好奇心

### 巨大球をレシーブ!「キンボール」の魅力は?



チームに交ざり、キンボールを体験する記者(中央奥)  
=9月18日午後、兵庫県三木市、伊藤菜々子撮影

クライマックスシリーズ(CS)は、最終ステージ(S)が始まっています。1勝1分けて突破した第1Sは、2戦とも接戦。見ている方は楽しい試合観戦だったと思いますが、グラウンドに立っていた選手たちはたまらなかつたでしょう。ただ、チームは、最高の勝ち上がり方をしました。阪神は短期決戦に弱いと言われ



### 虎よ 突走れ

松山 進太郎

てきました。CSには難しきがある。開幕前から目標としてきた優勝を逃したことで選手は一度、気持ちが切れてしまう。そこからもう一回、スイッチを入れ直して戦うというのは大変です。現役だった昨季も「優勝出来なかった」という思いが強く、心にポツカリと穴があいたような感じだった。3位広島とは差があり、残り試合をうまく緊張感を持って戦うことが出来なかった。そして完全に勢いに乗ってきた広島に2連敗。しかし、今季は立て直せた。下手すれば4位になる可能性もあったなか、最後まで2位を争った。特にレギュラーシーズン最後の6試合は接戦ばかり。1点差が5試合、2点差が1試合。それを

### 短期決戦に弱い?…今は昔



CS最終ステージ進出を決め、拳を突き合わせる福原(左から3人目)と能見(左から3人目)

4勝2敗と勝ち越した。軸となるゴメス、吳昇桓は昨年を知らない。選手会長の上本をはじめ、最後の最後まで一か一か抜けた。競り合いのえの選手も出番に維持しなければならぬ。出番がなくても、チームを感じてくれる。チーム状態で短期決戦たことが非常によ。第1Sは1-0となかったのではな。投げ合えば、こうい。り前。そういう試合たことで、チームが先発投手もそろい。もしかりしてい。阪神は、接戦に強。巨人に1勝のアド。ることを踏まえて。の勝負ができること

## かけ声で指名 チーム一丸心理戦

玉転がしの球のように大きな直径1・22メートルのボールをバレーボールのように打ち合う。カナダ発祥の新しいスポーツ「キンボール」。ルールを知るだけでは、もう一つ面白さが実感できない。日本代表を生んできた関西国際大のキンボール部にその魅力を教えてもらうため、兵庫県三木市のキヤンパスを訪ねた。

「オムニキン、ピンク!」  
体育館には謎の叫び声が飛び交う。小学生なら隠れてしまいそうな大きなボールを、選手が追いかけている。呪文のような「オムニキン」という言葉の正体はプレー中のかげ声。「すべての人が楽しめるスポーツ」という意味だった。「オムニ」は「すべての」、「キン」は「キネシシス」(運動感)の略語だという。  
ルールは簡単。4人1組の3チームが四角いコート内でサーブとレシーブを繰り返す。チーム名はピンク、グリーン、ブラックに分けられ、サーブ権を与えられたチームはレシーブする

任された。うまく打つには拳を作り、ひじを曲げずスイングして手首の内側でボールの真ん中に力を伝える。しかし、焦ってパンチをしてしまった。ポコッとボールは緩く浮き、レシーブのチームが簡単に受けてしまった。約1キと軽いボールは安定感がなく、レシーブ側が拾うのは難しい。ただ、その軽さのため、ヒットする側もボールを拾わないようにするには、強く打つ必要がある。どこに飛んでくるかわからないので、試合中は走り続けなくてはならない。7分後には息が切れた。  
選手らのプレーを観察していて気づいた。打ち込む場所を読まれないように、打つと見せかけて別の人がヒットしたり、ヒットする時に急に違う角度から打ち込んだり、フェイントも多い。心理戦が面白い。

関西国際大キンボール部は男女合わせて21人。ほとんどが大学から始めたが、全国大会で優勝経験のある強豪だ。河原愛実さん(4年)は高校までしていたソフトテニス部が大学になかったのでキンボールを選んだ。「想像以上に難しくはまりました」。高校まで野球部だった新谷一真さん(2年)は遊び感覚で入部したが今はエース。「先輩のプレーを初めて見たとき、気持ちにボールに乗っていかなくていいと思った。やるからは日本代表を目指したい」。全国の強豪チームによって競われる12月のジャパンプンでの優勝を目指している。

ただ、トップレベルを目指すことが競技の目的ではない。1986年にカナダの体育教師が「励まし、助け合い、感動の共有や協調性を高める」ために誕生した経緯がある。年齢に関係なく楽しめる簡単なルールもある。関西国際大は地元の小学校で定期的に体験授業を開き、楽しさを伝えている。部長の長坂拓磨さん(3年)は「だれでも主役になれるし、みんなが楽しめるスポーツ。まずは多くの人に知ってもらいたい」と話す。(橋本佳奈)